学校番号	218

令和８年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校　生物基礎　Visual　（実教出版）						
副教材等	リードLight　生物基礎　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・教科書とChromebookを使用します。実験や授業でプリントを配布しますので、クリアファイルやフラットファイル等を活用して紛失しないようにしてください。
・授業は復習を大事にしてください。授業を通して生物や生物の引き起こす現象について考えながら、その仕組みや概念を理解していきます。授業を通して、自分で考え、文章に表現していく力を身に付けてください。
・副教材は学習する用語や考え方の確認と定着のために使います。定期テストで出題されますので、習った範囲を進めてください。問題を解くためのノートを一冊用意してください。
・各授業で振り返りを行い、習得度を計ります。これを用いて「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料とします。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】
生物や生物現象に関わり、学習内容と身の回りの生物や環境に関わることを見出し、理解する。
【思考力、判断力、表現力等】
理科の見方・考え方を働かせ、実験や観察、データの分析などから生物や生物現象を理解した上で、思考力を働かせて生物や生物現象を探究する態度を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】
主体的に取り組む中で粘り強く学習できるような態度を身に付け、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するとともに生命に対して慈しむ心を育む。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	生物の特徴	・生物の共通性・多様性 ・生物の多様性と進化 ・細胞 ・代謝とエネルギー ・酵素と代謝 ・光合成と呼吸	a:生物の特徴に関する概念や原理・法則を理解しているとともに、観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 b:観察、実験などを通して探究し、生物の特徴の共通性を見出して表現している。 c:主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、探究しようとしている。	・授業内レポート ・テスト	・実験計画・考察 ・データ分析 ・グループワーク ・発表 ・授業内レポート ・テスト	・振り返り ・授業での取り組み
	遺伝子とその働き	・遺伝情報とDNA ・DNAの複製と分配 ・遺伝子とタンパク質 ・タンパク質の合成 ・ゲノムと遺伝子の発現	a:遺伝子とその働きに関する概念や原理・法則を理解しているとともに、観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 b:観察、実験などを通して探究し、遺伝子とその働きの特徴を見出して表現している。 c:主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、探究しようとしている。	・授業内レポート ・テスト	・データ分析・考察 ・グループワーク ・発表 ・授業内レポート ・テスト	・振り返り ・授業での取り組み
2学期	生物の多様性と生態系	・生態系 ・植生とその変化 ・遷移のしくみ ・世界のバイオームとその分布 ・日本のバイオーム ・生物の多様性 ・生物どうしのつながり ・生態系のバランス ・人間生活による環境への影響 ・生態系の保全の重要性	a:植生と遷移や生態系とその保全に関する概念や原理・法則を理解しているとともに、観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 b:観察、実験などを通して探究し、植生と環境、生態系における生物と環境の関係性を見出して表現している。 c:主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、探究しようとしている。	・授業内レポート ・テスト	・データ分析・考察 ・グループワーク ・発表 ・授業内レポート ・テスト	・振り返り ・授業での取り組み

3学期	ヒトのからだの調節	・体内環境と恒常性 ・体液とその働き ・体液の調節 ・情報の伝達 ・自律神経による調節 ・内分泌系による調節 ・自律神経系と内分泌系による調節 ・生体防御と免疫 ・自然免疫と獲得免疫 ・免疫と疾患	a:神経系と内分泌系による調節や情報伝達、免疫に関する概念や原理・法則を理解しているとともに、観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 b:観察、実験などを通して探究し、神経と内分泌系による調節の特徴と、免疫の働きの特徴を見出して表現している。 c:主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、探究しようとしている。	・授業内レポート ・テスト	・実験計画・考察 ・グループワーク ・発表 ・授業内レポート ・テスト	・振り返り ・授業での取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度